

6年ぶりの南京訪問

飛田雄一

●（2025年）8月13日（水） 久しぶりの南京

6年ぶりの南京。神戸・南京をむすぶ会 24 回目の訪中だ。2019 年、南京桂林を訪問してから 6 年目。コロナで 5 年間中止していた。

神戸南京直行便が開設されたので利用することにした。が、使用者が少ないからか、減便となった。私たちの便も減便の対象となった。関空から行くことにした。仕方ない。

神戸南京の予約はすでに済ませていた。それが減便となったのでたいへんだった。沖縄から参加 3 名のうち 2 名は、当日、那覇・神戸・南京の予定だった。関空に変更したので、那覇神戸便、そして帰国の神戸那覇便が使えなくなった。やむなく那覇関空便に変更してもらった。那覇から関空第 2 ターミナルへ。そして第 1 ターミナルの国際線へ。ツアコンとしてはやきもきした。吉祥航空のカウンターに何度も、「もう○についたから、もう▽についたから」と何回も連絡。そして出発 1 時間まえ到着、セーフ。

以前、神戸学生青年センター主催の韓国江陵「祭」ツアーのとき、強風で関空連絡橋の列車がとまった。バスは OK だった。最後の列車予定の 1 名がカウンターに現れたのが 30 分まえ。カウンターで、「もう無理です、乗ってください」と言われた瞬間だった。それにくらべたら余裕がある？

総勢 20 名。おじさんおばさんが中心だが、高校生 1 名、大学生 1 名。

無事南京空港につく。1997 年第 1 回からのパートナー、ガイド兼通訳の戴國偉さんと再会した。コロナで 5 年間行けなかったもので、6 年ぶり。今回は、南京のみの滞在で 5 泊 6 日。すてきな ASCOTT ホテルについた。南京市街の北、玄武湖の近くだ。

暑い。神戸より暑い。先が思いやられる。でも、まずはレストラン。

すごい夕食だった。みんな、大満足。外の暑さも忘れて食べ、飲んだ。更に有志はコンビニでビールを買って秘書長の部屋で反省会。秘書長とは、私のこと。私は神戸・南京をむすぶ会の事務局長。中国でも事務局長の名刺を作っていた。が、戴さんが、中国では事務局長はかなり下っ端の役職とのことで、翌年から中国では秘書長となった。

中国はキャッシュレス。コンビニでも現金が使えないと聞いていた。心配だった。が、だいじょうぶだった。ミネラルウォーターを現金で買うことができた。戴國偉さんに聞いた。「現金支払を拒否することは不法行為」だとのこと。安心した。

● 2日目、8月14日（木）長江は流れる

快晴。バイキング形式のこれもすてきな朝食をいただく。そしてフィールドワーク<その1>。
今日は、長江（揚子江）沿いの南京大虐殺現場に建てられたモニュメントをめぐる。

燕子磯。えんしき。揚子江に燕のかたちにつきだした風光明媚な景勝地。ここに、当時難をのがれて多くの南京市民があつまり長江を渡ろうとしたが渡れず、多くの人が犠牲となった。断崖絶壁の場所もある。「ちょっと考えて（想一想死不得）」という石碑もある。東尋坊（福井県）では、「公衆電話にテレホンカードや10円硬貨を常備して誰かに相談ができるようになっている「救いの電話」を設置し、自殺を思いとどまらせるようにしている」という。が、街中の公衆電話が次々と撤去されている昨今、いまものこっているだろうか。



ホテルの番ネコ／燕子磯記念碑の前で／これは展望台にある由緒ある石碑



媒炭鉱の石碑／アップにしました／長江沿いの公園にあるレリーフ



挹江門公園／虐殺記念碑で記念写真を撮りました／ジョン・ラーベのお孫さん記念写真



ラーベ故居に残る避難してきた中国人をかくまった防空壕／玄武湖の蓮の花が咲きました

そして、草鞋峡記念碑、煤炭港記念碑、中山ふ頭記念碑。それぞれの由来は、宮内陽子団長のレポートをごらんいただきたい。

中山ふ頭では、長江の水に触れた。「河豚」（川イルカ）の名所でもある。一度は見たいものだ。でも、ガイドの戴さんもみたことがないという。そういえば今回、イルカの人形がなくなっていた。

午後は、挹江門記念碑。南京城からここを通過して長江に多くの人が逃げようとした。このあたりはまた城壁の美しいところだ。城壁外側の公園では、いつも多くの人が囲碁やトランプをしている。が、今年は少ない。暑すぎるのだろう。

みんな城壁にも登った。城内、城外（長江）がよく見渡せる。私は、城壁に登らないという所さんにおつきあいして？、公園の木陰でまっていた。涼しかった。

そして、当時、「国際安全区」（決して安全ではなかった）にあったジョン・ラーベ「故居」を訪問した。ラーベは、ドイツ人。ナチス党员でもあった。が、それをも利用して自宅の防空壕などに多くの中国人をかくまった。いまでも南京市民の尊敬を集めている。

ちょうど、ジョン・ラーベさんの孫が招待されて来館していた。彼が、写真をとりたいと言ってくれた。私は、抜け駆けして、いっしょに写真をとった。館内見学でも、孫さんがいっしょに写真をとりたいと言ってくれた。で、こんどは正式に横幕を広げて記念写真した。

ラーベ故居、別の日に訪問予定だったが、涼をもとめてこの日にいった。そしたら、偶然にお孫さんにお会いできた。わが団は、ついている（もっている？）。

● 8月15日（金）南京記念館追悼会、そして、利濟巷慰安所旧址、南京女子師範大学

南京訪問のメインの日だ。朝、「侵華日軍南京大虐殺遇難同胞記念館」で追悼集会があった。例年なら一般の南京市民も参加して行われるが、昨今の日中関係の悪化の影響で、こじんまりとしたものとなった。しかたない。

そのご、記念館の計らいで開館前に展示をみることができた。リニューアルした記念館の展示は、よく整備されていた。日本語の表示も多くなっていた。

記念館のいちばんの思い出は、最初のころのことだ。2回目（1998年）、中庭で工事をして
いた。拡張工事とのことだった。翌年、その拡張工事の場所にテントが張られていた。聞くとそこ
から人骨が発見されたという。記念館の場所は集団埋葬地の場所だと聞いていたが、中庭から人骨
がでてきたのだ。前年、私たちは、そのあたりを歩いていたのだった。ショックだった。その翌年
には、そこに新しい「遺骨陳列館」ができていた。



侵華日軍南京大虐殺遇難同胞紀念館／犠牲者遺族・曹玉莉さんと通訳の戴國偉さん／記念写真です

今回、みんな思い思いに見学した。私たちの見学が終わるところには、一般の見学者がどんどんと
増えてきた。入口のところには長蛇の列ができていた。

私たちは、旧館に移動。中には犠牲者の数を象徴する 30 万個？の石が敷きつめられている。大
きなレリーフ、判明している犠牲者の一部のお名前、各地の虐殺記念碑のレプリカがならんでいる。

旧館には、先の「遺骨陳列館」もある。

そして、会議室に移動。犠牲者遺族・曹玉莉さんの証言を聞く会である。詳細は、小城智子さん
の記録を読んでいただきたい。戴國偉さんのいつもの事実を確認しながらの丁寧な通訳もとてもよ
かった。記念写真もとらせていただいた。今年、12月、曹玉莉さんは、日本の東京、名古屋、大阪
の集会にきてくださる。神戸集会は日程の都合で実現しないが、私たちは大阪集会に参加したいと
思っています。（※最終的に訪日がかなわなかった。）

午後、まず、南京利濟巷慰安所旧址。そして、南京女子師範大学（金陵女子大）を訪問した。静
かなキャンパスには当時の建物が多く残されている。有名な食事のために多くの人々が並んでいる
広場もそのままの雰囲気がある。



国際難民区のあった金陵女子大／ホテル近くの玄武湖／李白さんがおられました

● 8月16日（土）中華門、民間抗日戦争博物館、そして、勵志社博物館

朝、ホテルの近くの玄武湖を散歩。すてきなところだ。李白さんもおられた。太極拳、社交ダンスもさかんだった。蓮の花は、咲くときに音がする。その音を聞いた、ような気がする。

フィールドワークは、まず中華門。門といっても、城壁だ。圧倒される。門は4つある。中華門全体は東西118M、南北128M。いちばん大きい屋上？はサッカーでもできそう。よく風揚げをしていたが、今年は上がっていなかった。



巨大な中華門／正面です／自撮りしてみました

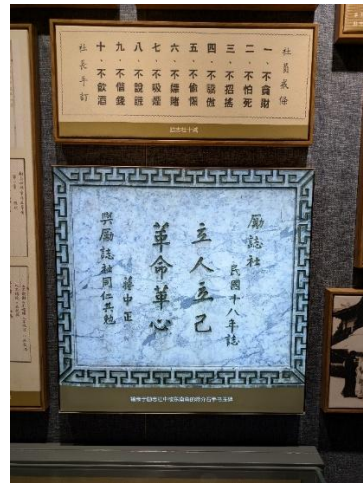
そして、民間抗日戦争博物館。館長の呉先斌さんとは旧知の仲だ。書道家でもある。今回、マレーシアのシンポジウムに出張中だった。（帰国後、最終日にホテルまで来てくださった。）ますます充実した展示となっている。

昼食はその博物館の食堂でごちそうになった。おいしい餃子だ。中国では餃子は蒸すか煮る。日本に帰ると、なぜか焼き餃子が食べたくなる？

午後、「勵志社博物館」訪問。由緒ある建物だ。近くに「黄埔軍官学校」があり、その正門の一部が博物館の前に残っている。

軍官学校について、私は『むくげ通信』272号（2015.9.27）にうんちくを傾けている。（「むくげ通信」で検索すれば総目次がありそこから見ることができる。）広州にあった学校を訪問した時の記述である。

勵志社博物館は、戦後、戦犯谷寿夫らが死刑判決を受けた場所でもある。



民間記念館の食堂です／勵志社博物館／この門柱が黄埔軍官学校の門柱です

南京文化探訪も重視した今回の訪問。南京博物院に行った。すごい人だった。ひとひとつと。ほんと。

一般入場には、事前予約が必要だ。が、65歳以上は不要で、付き添いの若者も一名OK。わがグループはバランス的にOKの予定だった。が、トラブル。18歳未満はその付き添いの権利がない？とのこと。一名が入れなくなった。残念、幸い？もう一名、パスポートを忘れて入れなかったメンバーとふたり、外でまってもらったことになった。申し訳なかった。でも、ミュージシャンのふたりは音楽談義がはずんだとのこと、よかった。

展示もすごい、面積も広い、経路も複雑。よく全員無事で合流できたものだ。もちろん、わたしも十分に文化探訪した。ビールも少し飲んだ。

● 8月17日（日）毘盧寺と映画「南京写真館」

朝、有志で玄武湖散策。前日に散歩した私は案内人だ。走っている人も多い。われわれは、走らない。以前、どこのホテルに泊まっても毎朝走るメンバーがいたが、今も走っているのだろうか。

毘盧寺を訪ねた。立派な寺だ。この寺、最近映画「南京写真館」で注目されている。日本軍が撮影した写真の現像をたのまれた中国人が、そのうち16枚を別に現像して残したのだ。それが、戦後、谷寿夫らの戦犯法廷に証拠として提出されたのだ。現像した人、それを発見して隠し持っていた人がいたのだ。

中国で上映中のこの映画。中国では非合法的にネットで見れるとのこと。そのネットは、次々に削除されるが、また次々にアップされるという。

韓国では。韓国語の字幕付きでアップされている。今も削除されていない。その画像に、私の友人が日本語字幕をつけた。時間のかかる、技術が必要なたいへんな作業だ。それを執念でやりとげたという。すごい。どうしてもそれを見たいという方は、私まで連絡を。



崑崙寺、難しい漢字です／住職さんがカッコいい！／また？食べています

その写真を隠したというトイレも見学。塔から街を見渡し、宝物も拝見した。ご住職が戴國偉さんと知り合いで便宜をはかってくださった。おみやげまでいただいた。わが方は何もなく、宮内団長作成のフィールドワークノートを差し上げただけだ。申し訳ない。

帰路、有名な観光地・夫子（孔子）廟を散策。ここもすごい人だ。ツアコンの私としては、緊張するところだ。緊張しながらも、勝手知ったる、夫子廟を散策した。無事全員集合し、無事ホテルにもどった。安心して、ビールを飲んだ？

今回のホテルは、マンションをホテルに改造したもの。各部屋にキッチンがり、洗濯機もある。最新式の洗濯機で、毎日洗濯した。わが家は２層式洗濯機。初めて、全自動乾燥機付きを使った。すごい。リュックサックまで洗った。きれいに、なった。

● 8月18日（月）南京でのお別れ、そして関空へ

朝、民間博物館の呉さんが来てくださった。テレビクルーもいっしょだった。団長、若い団員がインタビューに応じた。みな、堂々としている。日中関係がギクシャクしているが、このような時期だからこそ、日本から訪問することも大切だ。どこで、そのニュースが放映されたのかは、分からない。が、いいだろう。

そして、南京空港。戴國偉さんと別れをして、関空に向かった。さびしい。LCC だから、機内でビールはでない。注文もしなかった。

関空、リムジンバスで三宮、そして自宅・鶴甲団地に帰ってきたのであります。今回は、24回目の訪問。これまでけっこうすごいトラブルもあったが、よく無事に続けられてこれだ。戴國偉さんはじめ現地の方々、意欲的な団員のおかげだ。感謝したい。